

議事録

平成 16 年度長泉町健康づくり拠点施設基本構想・基本計画策定業務

平成 16 年度 第一回ワークショップ

日 時：平成 16 年 11 月 17 日（水）

場 所：長泉町役場大会議室

参加者：土屋総務部長、池田企画財政課長、秋山主幹、井出保健センター所長、磯田主幹、

前田スポーツ振興センター所長

(株)環境デザイン計画：川島、増田、藤田、玉山、本橋

ワークショップ参加者 13 名（一名途中退室）

池田氏：みなさんこんばんは。特に資料を用意しておりませんが久々に皆さんにお会いしたものですから、今年度のおさらいをしたいと思います。まず、私達行政の中では各課連携して新しいものを生むというばかりではなくて、すでに取り組んでいる健康に関する政策というものがあるわけですが、そういうものがより連携した形で、より効果が出やすい形で取り組むことを目的とした、連絡会というものを作って、話し合いの場を設定しました。保健センター、工事管理課、産業環境課、教育委員会のこども育成課、生涯学習課、スポーツ振興センター、そして私達の企画財政課、この 7 課がそれぞれ課題を持ち寄って、あるいは健康に関するような政策という事を一つのテーマにしながら、それについて私のところはこんな事をやった方がいいのではないかと、そのような話し合いをする場を設定しました。6 月 12 日に町民の皆さんに関する事業としましては、このワークショップのもう一つ別の基本的なものを知って頂く委員会があるのですが、その委員長でいらっしゃいます荒尾先生の講演会を行いました。その後 9 月 25 日三島にあります県立総合健康センターで担当の方のお話を聞いたり施設の見学をしてきました。今年についてはワークショップの皆さんとは機会を設けずにきたわけですが、今日はワークショップとしては第 1 回目になるわけですが、すぐ先の建設というわけではありませんが、今やれるべきことをご意見として頂きながら問い詰めて行く、あるいは施設のあるなしに関わらず取り組めることはどんどん先に取り組んで行く。そういう中で意見交換ができればと思っています。

スポ振：まず 4 ページ、スポーツ振興センターでやっている事業の中、ソフトボールから各競技団体まで体育館の形状は、目的に応じて使うことができるという解釈だと思います。バレーボールは当然いいと思うのですが、ゲートボールは室内でやれないことはない。ただしゲートを差し込む穴がフロアに必要なのではないかと思います。それからソフトテニス、硬式テニスと軟式テニスとあるわけですが、これにつきましても、ボールの穴を空けていただければ使うことができます。6 ページ、各種スポーツ教室とございますが、健康美体操、これはスタジオができればいいのですが、60 人がかなりスペースをとりますので、バレーコート 2 面入るところで 60 人入るといっぱいになる状態ですから、人数を少なく、回数を増やすことで解決できると思います。

左側に回数、定員、参加人数とありますが、回数につきましては、おのこの 2 期もしくは 3 期、親子の遊びにつきましては 12 回を 2 期にわたってやっております対象者につきましては幼稚園入園前の児童とお母さんを対象にやっております。女性のための水泳についても 10 回を 2 期にわけてやっております。対象者は泳げない女性ということで 75 歳の高齢の方が 10 回がんばってくれました。高齢の方も健康の為に運動という事で非常に嬉しい事と思います。あとは健康美体操、これは 10 回ずつ 2 期、子供水泳、10 回を 3 期に分けて町内の小学生 1.2 年生を主体にしております。毎回定員オーバーしまして抽選でもれる子が出ているという事でございます。ナイターテニス、10 回を 2 期、レディースゴルフも同じ。水中健康というのは、プールにコースロープがありますが、コースロープをはずしまして使ってエアロビ的な感じでリズムカルに動いてやっています。このへんはいいと思います。簡単にセンターの方でやっている事業、施設がどのように使われているかという事で説明させていただきました。

川 島：皆さんこんばんは環境デザイン計画川島でございます。今回長泉町の方から基本構想に基づきまして、プログラム、使い勝手についてより成熟した形で皆様と共有の認識を持つという立場で今回ワークショップに参加しております。資料の流れでございますけれども、これはあくまでもたたき台でございます。前回基本構想に基づいてゾーニングは承認されまして、その中の細かい各部屋についてはまだ今後つめていくという認識がございます。まず縦軸割からですけど目的空間がございます。体育館ゾ

ーン、健康増進ゾーン、保健ゾーン、共有ゾーン、ウォーキングゾーンと上のほうに目的空間、ゾーンそしてその下に体育館、保健増進、保健、共有、ウォーキング、駐車場とあるのですが、その中に、体育館ゾーンであれば、競技場、ランニング走路というように書いてありまして、長泉町のほうで、たとえばスポーツ振興センターのほうで行われているものが、例えば今回健康増進施設の中で、どう取り組むことが出来るだろうということをこちらのほうで単純に分析した形で、例えば人数が40人50人であればこの部屋が使えるのではないかとということで、二重マルをつけているところが主たる目的となる部屋を列記しております。親子の遊びということであれば競技場のようなどころというように挙げまして、目的空間を今後、5年後、10年後、高齢化社会に向けて、色々なプログラムが設定できるように、長泉町のほうでプログラムがあったときにどこで出来るだろう、どういう空間が必要だろうという事を想定するための部屋割りを入れてあります。これは必ず確定されたものではございませんので、今後レクリエーションリーダーを育てる為、もしくは活用度を増やす為に間仕切を使った方がいい、もっと小分けにしたほうがいい、ボランティアリーダー、スポーツリーダーを育成するためにももっとこういう形の中でこのワークショップが成り立つという事を私どもは想定しております。目的空間についてもたたき台ということで、スポーツ行為に関してどの部屋が使えるのではないのでしょうかという形で列記されたというふうに見ていただければと思います。

保セン：保健事業は主に母子も成人も老人も同じですけど、健康手帳の交付を始めまして、健康教育、健康相談、健康診断、それから家庭訪問、機能訓練、予防接種、支部組織活動という大きな柱になっております。1ページは母子健康で、対象が母子になりますけれども、この事業内容は、主に健康相談、家庭訪問、それから健康教育のほうも、こんにち赤ちゃん教室、7ヶ月育児教育ということになっております。主に保健事業は運動、栄養を中心にはしておりますが、特に運動、2歳こ教室。これは障害児の母子の遊びの教室ですけれども、かなりスペースが必要です。歯の健康教室は保育園のほうに行っておりましたが、今年度は保健センターで行っております。乳幼児の健康診断は4ヵ月～10ヵ月は医療機関のほうで行っております。妊産婦検診も医療機関で行っております。成人老人の検診事後相談は、地域に出たり、保険センターで行っております。健康教育は、現在糖尿病予防教室を行っております。

さわやかクラブは運動を中心とした教室です。動脈硬化や生活習慣病を予防する為の教室です。健康教育はここに挙げておりますのはほとんど栄養と運動に力をいれております。ウォーキング教室は保健センターで、初級コースとして、その人にあったウォーキングということで行っております。

春は春のロードウォークということで、4月にはじめましたが、300人くらい集まりまして、スポーツ振興センターと一緒にやりました。

健康大学は人数が大変多いもので、保健センターではとても入りきれないということで、いずみの郷でやりました。健康教育は老人クラブやウォーキングを教えてほしいということで、各地区に行っております。10月11月は文化祭で骨密度測定、骨粗鬆症の話、健康教育をおこなっております。健康教育は、運動、食生活、生活習慣病の一次予防を中心にしております。生活習慣病検診は、医療機関で行っております。歯科検診はいずみの郷の歯科診察室を使いまして、歯周歯科検診を行っております。訪問歯科検診ということで、訪問で歯科医師による保健指導を行っております。

健康啓発事業これは福祉健康祭り、それから歯の集いということで、毎年300、400人という参加者がおります

川 島：目的空間につきましては多様性のある、目的的な、例えば健康増進であればスタジオ、スポーツジム、視聴覚、健康相談、健康指導、栄養実習、栄養指導、機能回復、ミーティングルーム、託児室、というようになっていたり、保健であれば検査、集団検診、計測、問診、診察、歯科診察、相談というようになっております。ネーミング的にはこうなっておりますが、人数によって部屋のキャパシティをどの部屋で対応するのかを考えておりまして、競技場については集団検診とか、保健指導、保健相談でやっている事業を競技場でも出来るのではないかと、設定しております。つまりそれぞれの項目について、多人数の場合、競技場を使ったら出来るのではないかと、ということです。逆に人数が少ない場合はミーティングルームや相談室でやってはどうか、ということです。状況、内容、プログラム、メニューによって様々な部屋で出来る可能性があるところに という形で印をつけてあります。体育館の方でもスポーツ振興センターの方でも色々なイベントがあったときに、他の会場が主たる会場であって、健康増進施設がこういった形で使えるかということで印をつけてあります。人数によって、小、中、大もしくはどこで使えるかという分類です。

保セン：予防接種は年間22回ありまして、そのうち10回をペルフォーレで、12回を保健センターで行っております。

参加者：今、横軸、縦軸に関して簡単にご説明いたしました、今の説明に、ご質問等ございましたらおよせいただきたいと思っております。

参加者：体育館なのですが、縦横だいたい何 m くらいあるのですか？

川 島：縦 34.5m 横 36m です。

参加者：テニスが入るのでしたら後ろが 6m いるので、縦 36m 横 40m 必要なので、少したりないかなと思いました。どこの体育館でもそうなのですが、コートが狭くつくっているのが、どうせつくるのであれば、できるのか、できないのかと言うように中途半端にしないほうがいいと思います。

川 島：わかりました。

冒頭にお話したのですが、今日のテーマの中心としたいのが、長泉町がすでに行っている事業がこんなことはやっていないのか、あるいは、例えば保健センター、スポーツ振興センターという縦割の中でそれぞれが今やっていることを開発したものでしかありません。そうではなく、あそこではこんなことをしている、こんなことをしたらどうか、このようなことをやるべきではないのか、そういうことについて知恵をかりたいと思います。今日は長泉町に足りないものを洗い出したらいいなと思います。

参加者：保健センターとスポーツ振興センターの 2 つなのですが学校の関係、小中学生がもうすこし活用できるように、スポーツ振興センターのほうは中学生とか高校生、あと保健センターのほうだと幼稚園生ですね、ちょうど中間層がぬけていると思うのですが、あとスポーツ少年団達などの学生が使えるようにしたらいいのではないのでしょうか。

川 島：それは施設の話し、ハードの話しどちらですか？

参加者：両方です。

参加者：この統計というのは

参加者：今回取り上げる数字的なものは平成 15 年度、昨年度の実績の数字をだしています。事業のほうは昨年度の事業、これにないものは、平成 16 年度のこちらに掲載されているもの、これを見ていただいて不足しているものがあればだしていただければと思います。

川 島：お手元の 7 ページ、精神事例プログラムでまず健康保健についての事例、頭からいきますと静岡県の総合健康センターのほうで保険健康チェック、長泉町でも行っておりますが、糖尿病教室、歯磨き教室、食事運動教室、習慣病改善、高齢者健康づくり、交通サポート、子育て支援、ハンディキャップ・IC カードによる健康管理、心の健康増進、などが健康についてですが、8 ページ目は、ランニング教室、エアロビクス、ダンベル・チューブ教室、太極拳教室、気功教室、シニアエアロビクス、シルバーエクササイズ、ボクササイズ、水中エアロビクス、ヨガ教室、筋力トレーニング、フラダンス教室、ステップエクササイズなどスポーツに類するものが名目上でできています。

9 ページには ABC にわけて各種団体のワークショップ、提案などということで、各種団体の会合が行われるクラブハウス、生活習慣病の相談、コミュニケーションをはかれる場、レストランメニューにカロリーが表示できるようなもの、屋内で憩いの場、自分の健康に合った運動メニューを教えるところ、水遊びができる場所、健康の為に調理室、健康食品の販売、車椅子ダンス、相談指導員の常住、車椅子リハビリをかねたウォーキング、屋上、公園もかねたウォーキングコース。

前のワークショップの記録・キーワードとして紹介したのが 9 ページ、8 ページ 7 ページにつきましては他の関係のメインを書き加えたものです。

あらゆる世代の方が来られるような魅力のある施設にしたらどうなのかということで、皆が集まれるようなコミュニケーションがとれる場、早い時間・遅い時間に自分の時間で利用できるほうがいいのではないかと、などいろいろな話がでたと思う。今回は皆様のおかげで長泉町のほうで健康増進に関するプログラム、既存のプログラムを公開するにあたり、皆様に魅力のある施設をどう造っていくかを推し進めていって、建物だけではなく、成熟したものをつくっていくというのがテーマでございますのでご理解頂ければと思います。

参加者：せっかくお越しいただいたので発言していただければと思います。

実際に今行っている保健センター、スポーツ振興センターの事業であるとか、実際に参加してみて気が付いた点、また、保健センターの中でも限られた会場の中で行っているわけですが、そういう中でこういう事業をやってもらいたいなどご意見で結構でございます。こちらでは気づかない点が多々あると思いますので知恵をだしていただければと思います。

参加者：少年野球の代表で今年フェスティバルの年 2 回のお祭りがあるのですが、9 ページにもありましたが車椅子ダンスをやるというお話がありまして、三島高校の福祉課の課長さんが力をいれてくださいました。団体を紹介してもらい車椅子のこと、なにをするのかを話しまして、車椅子を押したことがないという方が結構おりまして、若い方がいずれ自分もお世話になるのではないかと、是非自分も 1 度試してみたいという意見がでました。バリアフリーという時代にもなっておりますし、各家庭の造りもそうなっていると思います。いくら施設が出来ても車椅子を实际使うとなると多少不便かなと言う気がします。いずれ私も車椅子のお世話になるのかなと思っておりますしそういう施設があればという気持ちです。

参加者：保健センターのそれぞれの事業というのは、保健センターにこういう施設をいれるのだよということであれば、いろいろな意見を出し、常にやっていって欲しいし、他の市町村で行っている本当にいいところを取り入れながらやっていけばいいのかなと思いますが、今ざっと縦軸・横軸を見せていただいて施設で 3 階の部分の所、クラブハウスというのは常時使うのでしょうか？それとレストランのところもロビーとかエントランスを利用できるので、よく考えていただかないといけないのかなと思いました。クラブハウスも、他の栄養指導室、健康指導室とか、毎日使うわけではないと思うので、夜は子ども達の為の指導室はいらなくていいですし、だいたい昼間するので、夜は空いている時にはそういう場所を使用すればいいと思います。いらなくていいところはもっと皆で考えていかなければならないと感じました。

それで、いままで会議の中ででていたハードの部分が原案プログラムとしてでていますが、ソフトの部分はまたこれから思案されてまた別の機会ということですね。

わかりました。以上です。

川 島：いまのようにハードのご意見がでてかまいません。

ただしハードについては、全体的な機能、健康の指導と実際の場合そういうものを大事にしようよということで基本構想がまとまっていると思っているわけですが、そのような中で全くハードの検討なしに議論が進まないものですからハードをセットで対にしました。今回ずっと基本構想がまとまった後にハードについていろいろな意見がありました。それらを踏まえて今回つくっているものでありまして、これまでの議論の中で十分な議論がされつくしているとは思っておりません。昨年度、本来でしたら業務構想、基本計画というところまでの話しにいく予定をしておりましたが、総合的な議論が足りないなかでハードを与えてしまうのは危険であるだろうという判断で基本計画というところにあるようなハードの図面があれば基本計画といえないことはないというところまでまとめられたのですがあえてしていません。ですからここにあるものもまだまだ議論があるなかで、でてきたものを並べてあるだけだと思っていただきたいと思います。

先程のようなご提案を受けながら、大々的に変えるのではなくて多少融通させることで、利用価値が広がるなら変えていくべきだと思っていますし、前回ありましたが栄養資料・検診室がこんなに広く必要なのか、クラブハウスについてもゴルフの練習場だったと思うのですが、それよりも公共の場が必要だろうということで、まだまだハウスについては全然固まっていない、大きなコンセプトは基本構想にまとめさせてもらった通りで変わることはないと思いますが、間取りであったりまだまだ今後議論していくものであると認識していただきたいと思います。今日ご意見いただくなかでハードについてのご指摘はかまわないことだと思っておりますので引き続きご指摘いただければと思っております。

参加者：見させていただいて、あらゆるできるもの全部を濃縮していれているなというのは分かるのですが、濃縮したところで他のものが少しずつ切られていって、大勢の方に利用していただきたいのでしょうけど、いろんな施設・利用方法を全部入れているので反対に使いにくくなっているのではないかと思います。運動施設・保健センターの業務ということであると 1 階 2 階をしっかりと分けて、運動施設もプールも両方にあるのは理想ですがあまりにも土地の関係上狭くなりすぎて反対に使い勝手が悪すぎるのではないかと思います。時々、御殿場のプールに行っているのですが利用スペースがすごくゆったりしています。目的に合った広さをしっかりと確保してやらないと、いろんな事を全部入れていくと結局使い勝手が悪くなってしまわないかと思えます。どこかを切り詰めていかないと、結局つくってみたら個室ばかりで一つ一つ目的はあるのですが、広い目的で・広い場所でやりたいという事が全部出来ないのではないかという感じを受けているのですが、いろいろな意見があって全部入れるとこのように濃縮されるものかと思えているのですが、使い勝手はどうなのでしょう？

使う方が大勢来て使われる施設になるものなのかなと疑問に思った次第です。以上です。

参加者：当初町が運動公園を計画されていたがセンターのところ、計画しているんな反対意見があり、いつのまにかこういう形になってきているのが実状ですが、運動公園というのは完全に止めてしまったのか？

事務局：当時反対運動が矢面にたちましたけれども、もともとがんセンターになったところにつきましては、屋内設備を初めから想定していませんでした。あくまでも屋外の施設ということでその際には体育館的なものについては今あります中、道路の裏のところ、あそこがちょうど東西に三島にむけて都市計画道路により分断される。その残りの土地を将来的にはそういうことに使っていいのではないかと構想ですが、それぞれ役割がありました。結果的に事業に結びつかなかった総合グラウンドの中には屋内体育施設はなかったわけです。今おっしゃられました運動公園は都市計画事業の中で位置付けがありましてそれなりに保証金がいってくるというなかで進めたわけですけれども、面積が必要であること、事業費が大きくかかるということ、そのなかから土地は駿河平の今ありますグラウンドを中心として事業を展開しようとしたのですが、住民運動だけでなく実際がかかる費用が莫大だというのが現実の話でした。そんななかから2転3転して一時は桃沢グラウンドを野球のグラウンドとして野球場を作ろうと、いちばんのものは昨年おこないました国体のホッケー競技に人工芝が必要だよというところから、総合グラウンドというよりは人工芝をつくって国体に会場として使おうと悩んでいたのは事実です。それが国体の会場は竹原になったわけですけれども、その部分部分を1ヶ所に集めずにこのパーツの部分はここでというような考え方で参加をはかって進めていいのではないかとというのが当時の竹原グラウンドを取得し整備するというのが町の考え方で進めたわけです。

参加者：今、竹原グラウンドの利用率はどのくらいですか？

スポ振：数字的なものは持ってないが、聞いている中では国体が終了してからは基本的にはホッケーだけでなくサッカー、多目的に使おうということでライン引き直しが終わりました、利用率は夜間が非常に多いと聞いております。サッカー関係ですね。昼間は充分ではないが、かなり利用者はおおいと聞いております。
土日と夜間につきましては、ほぼいっぱい、年間299日利用されていまして、770団体の利用が15年度ありました。

参加者：使用料が高く、利用できないです。あと駐車場が公園に戻ってしまって、前あった駐車場潰してしまって、だから今ある駐車場の上を立体にすれば若干増えるからいいけれども今の状態では昼間の利用がほとんどない。

事務局：駐車場のスペースが初めの計画から非常に少なく、国体の際には他の所も振り分けながらイベントをのいだけたわけですけれども、今のご意見というのは他の方からもでておまして今、具体的にはこうしようということまではいっておりませんが、人工芝は県下でも有数の公共の施設ですからより利用されやすく、駐車場のことについても具体的に検討して行こうということになっております。使用料のことなのですが、安いほうがいいのですが、かならずしも今の料金を3分1・2分1にするから、利用者が非常に大きくなるということはなかなか難しいと思われます。体育施設のほかにいろいろな施設が町の中にあります。たとえば文化センター等で文化関係の団体が使用する金額をすくなくするということはありませんけれども、大きい事業をやっていく際の話だけではなく、これから町が進めて行く制度と現在の行政サービスを低下することなく進めていくには、やはり住居者のそれなりの負担をしてもらおうというふうに、これから順次かわって事になると思います。今ご意見頂いた方には申し訳ないのですが、グラウンド料金設定の際いろいろ議論がなされました。1歩2歩先のことをこれからどういうふうに進めていくかということ視野に入れまして料金の設定をしましたので、料金についてはご不満があるかもしれませんが今しばらくは現行でいきたいと思っております。

参加者：例えば、老人会あたりがグラウンドゴルフをやりたいけれども、料金が高いから他のグラウンドとか皆分散しているのですよ。

事務局：先程も言いましたが、施設以外もいくつかありますが、結局は住民の皆様が大きく利用してもらうことが、低い金額をかけても利用者が0よりも、高い金額をかけても利用者が多いほうが結果的にはいい話だと思います。そういうようなご意見というのは基本的には住民の皆様が主体ですから議論する際にこのような不便なことがあるとあげてもらえれば町としては当然それなりに対応すべきだという、申し訳ないのですが老人会の皆様はそういう考えがあるかもしれないですが他に利用する方たちはまた別の考えがあるかもしれないからトータルしていろいろな対応をしていくことになると思います。

参加者：ただ、いつ行っても昼間は空いているのですね。周りを散歩している人はいますが。

参加者：はじめから作ってはあったのですがネットの外側をジョギングするようコースとしての整備をしていなく、基本的にはネットの内側で考えていたのです。使いはじめてみて外のほうがいいということで

本年度整備しました。是非使ってください。

参加者：最初に、今年度のソフト事業の話して、意味があまりわかりません。実際にこんな事業をやっているのか、なるほどと思うのですが、失礼な言い方かもしれませんが僕らのできる判断ではないから今後ワークショップでソフト事業を考えるならばもう少しざっくり、一般的ところでやっていただかないとまずお答えができないと思います。一般的な意見といえば先生のお話をうかがって思ったのですが、施設の大きさ・用途の問題だとかでてくると思うのですけれども、今おっしゃったように、作りましたでも駐車場が必要です。駐車場は前回も聞きましたがそんなに意味がない。それはこの施設にもいえます。結局はお金がかかるからやらない。でも実際にできたグラウンドは駐車場が足りないという現実問題につきあたる。つまりここでやるワークショップはそこに手段をおかなければ、施設がいるいないという非常に悪いレベルに下がってしまうかなという気がします。何を考えるかという単純に解釈を考えているわけなので、作りました人が来ます、作りましたお金が回収できませんではなくて、お金がかかるだけのことはやります。例えば保険料が下がりましたとか、長泉町がそういうことをやってくれるのならこの町に住もうと思って人口が増えたとか、大きな話になってしまいますが、その為にこれをやっているとするならば、私達に予算の問題をつきつけなくて、少なくとも考えてくれといわないと、いるいないというものができてしまう。それを言うならまちがいなく無駄はあります。それが無駄に終わってしまうのであれば今までの施設と同じですよ。例えば竹原グラウンド昼間使われない、よくよく考えれば昼間は使わない施設なのです。昼間は学校が働いているかなんです。昼間使えといわれたら働いていない人がいる町ってなりかねない。健全であるから夜間は利用者が増えるし、昼間は使わない。その施設が持っている性質というものを言うのであれば、大ホールは年数回しか使わないとかそういうたたきおとすようにしかつながらない、これからつくろうとする施設の持たせる性格づけをしないといけないかなと感じました。以上です。

参加者：私はたまたま福祉会館に入る機会がありまして、中に入ってすごい施設だと思いました。今回冒頭から保健と体育の融合みたいな話をすすめてきたのですが、福祉施設も充分使える施設ではないかという感じをうけました。これは見ただけで実際に使用していないので内容的には分からないのですが、やはり融合させることで昼間の利用も増やしていこうということはわかりますが、先程、話がありましたが、いろいろな機能が凝縮されることでどこも中途半端になってしまうという感じがします。

参加者：先程お話がでてきているように、昼間はかなり使えると思います。夜とか土日は、小中学生とかスポーツ少年団関係の方が使えるようなエリアをもう少ししてもらいたいという気持ちはあります。栄養教室とか間仕切りされてしまうと思うのですが、そういうところをフリーに使えるように健康の相談とか使わない時は、例えば研修会などがやりたいといった時に自由に使えればと思います。昼間働いている方は当然来られないし、今回初めて見たのですが、健康相談がかなりのものがありますよね。これは平日しかやられていないと思うのですが、これを土日、夜間とかそういうところにも時間の配分をやってもらえれば、もう少し町民の方が使えるのではないかと、健康診断も開催されていますが、心配で痛い時などに行けるとなるとサラリーマンは土日とか夜、夜間もある程度開放できるような場所で見てもらえるほうが、皆さん来るのではないかと思います。

参加者：先程も言いましたが、流れの中で、保健と体育という健康をうたった体育館を長泉がつくるということで、卓球ではないですけどもそういうものがあっていいのではないかとということで4面から2面になったわけですが、あの施設だと小さい感じがするので保健所体育での体育でもやはり中途半端、遊びといったらおかしいですけども、健康の為に遊びだったら最初からそういう目的でするのもいいけれども、少し何かができるようになったら、もう少し大きかったらできるのにそのところをアピールしてみたいと思います。2面の体育館をつくるということで、それなりのもの練習なり子供達のスクールができるぐらいの広さ、あと2mくらいあればいいと思ったのですが、先程も意見がありましたが、いろいろなものを取り入れすぎると全部出来ないと思いますので原点に戻って目的をはっきりさせてこの体育館は保健センターと体育館をやっとうだとしてれば必然的にいろんなことがまとめられると思う。本当はもっと体育館をつくりたいですけども無理だと思うので、できないものはできないって感じで目的を持った体育館にしたら、健康センターを中心に健康とスポーツを結びつけるか、みたいな形でやれば町民の方もわかってくれるのではないかと思います。できると言ったけどできない、使えないでは困ると思うので凝縮してははっきりさせていたきたいと思います。

参加者：水を差すようで申し訳ありませんが、いつごろできる予定でしょうか？

事務局：何年度というのは現実には非常に難しいです。

この土地、候補地についての話はでたとありますが、県の土地開発公社という組織を使って先行取

得してそこから今7年間にわたって買い戻しをしているところです。

買い戻しというのは15年度から今年ちょうど2年目なので21年に長泉町の名義に全部なります。あと同じ方式で竹原グラウンドもやっております、それが19年に町のものにすべてなるような、施設利用はしておりますが、議会の中で2つのものの償還が重なっている。1つ消えるには19年度まで重なっている、20年度以降で考えられるのかなというような答弁をしております。三位一体改革の後とか国の財政の内容もあり、具体的にというのはなかなか言えません。市町村合併もひとつの手法だということで国が進めている話なのですが、造ろうとするものの規模だとか、今私の口からは具体的なことは申し上げられないのですが、個人的な考え方としますと19年度までには着工するというのは非常に難しいと思います。

参加者：3年後19年度になって初めて竹原グラウンドの返済が終わるというお話ですから、それまでじっくり構想を練って、多目的会館ではなくて限定しそのかわり利用者の多い建物にしたらどうかと思います。

保健センターも考えてみれば、集団検診のときなど福社会館のほうまで車がいっぱい道路まではみだすような状態で駐車場がない為に非常に不便です。守衛さんも一生懸命誘導をしていますが、駐車場がない施設というのは、これから段々敬遠されていって利用者が少なくなると思います。そういうことを加味しながらこの前の200台位が収容できる駐車場をと申し上げたのですが、ぜひ加味しながら、利用価値の高いすばらしい建物だと言われるように長泉のどこにいても駐車場があるように、今は車社会だから多少遠くても車があれば利用は多いと思います。そのような施設に是非してもらいたいと思います。

参加者：私が最初に思ったのは今日もまたこの人数しか来てないというのが第1印象でした。町の姿勢としてワークショップを開いて住民の人からの意見を吸い上げたうえで大きなプロジェクトをやろうという計画がいままでなくて今回この健康づくりの施設に関して初めてこういうワークショップを開催して大勢の意見を聞きたいという町の姿勢を示してくれたにもかかわらず住民の我々がこれだけしか参加してないってとても情けなく思いました。その結果として意見が同じ所で堂々巡りなのですよ。それは共通理解が出来ていないから。申し訳ないが10回会議があって5回しか出ていない方と、10回出ていない方とでは理解の仕方が違うと思います。10回出ていない者にとってはいつまでも同じ事を同じように言われているのは腹が立ってきます。これはなんとかしなければいけないことだとまず思います。本題に入りますが私はこの施設は運動施設と保健施設が合体した健康づくりをうたう体育館施設と言う事でとてもユニークな発想だというふうに理解しております。今年度はソフト事業について話し合っていきましょうと言う大きな目的があり、それを今回の議題にしますというお便りをいただいたのでソフト事業について今現在私の持っている知識の中でどんなことが提案できるのかなと昼間まで考えてまいりました。保健施設との合体ということなので保健センターで持っているデータをだして健康診断の結果住民がどういう疾患を持っているものが多いのか、それはスポーツによって予防できるものなのか、もしできるのであればそのスポーツをメインとした事業展開というのをソフトの面でうたっていくっていうのはどうなのかなと思います。3大成人病に関しては、スポーツはとても有効だといわれておりますのでそれを予防する為のスポーツ教室をひらくのは有意義なことだと思います。ネーミングの問題ですが、たとえばエアロビクスだとかエクササイズだとかいうとお年よりはちょっと出来ないよとなってしまうと思うので、膝が痛いときは水中ウォーキングするといいいよとか、そのための教室だと分かりやすいソフトの展開をしていけばいいのではないかと思います。団塊の世代がもうじき定年をむかえて大勢の男性や女性が地域に戻ってくると思うのでその方たちが参加できる、しなければならないような経済状態、健康状態を皆さんかかえていると思うので団塊の世代をふまえた事業展開も考えたらどうかと思いました。以上です。

参加者：最後になりました。保健委員会から出ているものですが、保健センターのほうにはよく出入りしました。本当に保健センターの方々のご苦勞が手に取るように分かりましてと同時に施設でとても不便しているなと感じました。先程の話の中にもありましたが大勢の方たちが集える場所ということを以前もおっしゃられていたと思うのですが、例えば保健センターのほうで歯の集いだとか大勢の方たちが集うイベントがあるのですが、それが他の施設を借りて行っていました。今日会合があったのですがそれもホールを借りて行いました。ホールでは広すぎるコミュニティーでは狭すぎる、保健に関する研修で使える場所があればいいなと思いました。

参加者：これだけの出席では寂しいですね。町民の皆様がどうしても欲しいという気が浮かんでこないです。まず各種団体の中から選ばれてでているわけですから、出席して討議して決めるというような姿勢がないと、何十億というお金をつぎ込んでも有効な施設にならない、皆さんの意見はすばらしいと思いますが、もう少し町民が盛りあがりを作らないともったいないと思います。施設の図面をみますと、細切れすぎるからもうすこし広くしてもらって、ここは保健室だけではなく、会議でも使えるよとい

うようなもう少し利用価値のある中身にしないともったいないと思います。以上です。

参加者；今、コミュニティーにひまわり相談室と言うのがありますよね？その位置づけというのは保健センターとの関係がないのでしょうか？

心の病というか、心を病んでいる方たちの相談とか、小中学生だけでなくそういう方たちの相談というのはないのですか？

この中にひまわり相談室の機能を組込めないのかなと思ったものですから。

参加者：それは心配事相談として役場でやられているのではないですか？

参加者：心配事というか虐待を受けたり、いじめにあって心を病んで学校に行けなくなった人達ですが、保健センターができたなら管轄なのかなとは思っているので、入れることはできないのかなと思いました。

事務局；ひまわり相談は、基本的には不登校が主です。施設に入れば、保健室とか今行っている先生と相談しながらやるということは可能だと思います。

参加者：プライバシーの問題があると思います。人が頻繁に出入りするところで部屋だけ開放するのは簡単だと思いますが。

参加者：3階が適しているのかなと思っているのですが、クラブハウスの所が夜しか使わないのなら、わりと出入が少ないといいなと思いました。

保セン：今、心の健康相談ということで精神科の医者がはいた相談は実施しています。それは本当に個室で静かなところで対応したいのですが、今の保健センターはなかなか場所が無く一番奥の静かなところでやってもらっております。今、老人虐待・児童虐待もありますし、そういう面の相談の数はあります。保健士・スタッフがお話を聞いたりして心理相談員の方にもお話を聞いてもらいながらやっております。

参加者：ソフト事業の話をしていただいたので、団塊の世代そこまでターゲットを絞ることは考えていなかったのですが、団塊の世代の方が行かざるをえないような、私が考えていたのは医療とリンク、例えば保健事業ができるのか？どこかで踏込んだ時に法律にふれないのか？そういうことが全然わからないので頭の中でシャットダウンしてしまった。どのへんまでお考えになっているのかをお聞きしたいのと、そのへんまで踏みこんでいいのか？をお聞きしておけば次回に役立つと思います。

参加者：私がまず考えたのは、例えば住宅ローンが終わってないとか土地もこれから買わなくてはならないような、子供がまだ学生というところで定年をむかえてしまう方もいますし、自分に使えるお金っていうのがそれほど余裕がなくても、自分の健康を管理できるような運動ができればいいなとまず考えました。会社にいる間は会社の健康診断がありますが定年になるとなくなるので町の健康診断を受けることになりますので、町のほうで年代別にできた問題に対応するようなスポーツを考えられないかなと思いました。

川 島：社会の定義とか社会の中で構成されている内容をデータとして改築するという立場だけですので今回は長泉町の健康宣言という中で健全なる財政、健全なる町という中で病気・医療・介護・保健にかかわる財政を軽くしようというのが一般的にそちらの方にシフトしているということを最初に情報としてお流ししたと思いますが、それによって長泉町の健全なる財政がそちらの方にシフトして、余分にかかる医療費・介護費・保健費に対して経費が軽くなればそのお金が共有とか皆様の公共施設に対してサービスの他にお金がお金対価として発生してきますというのがメインの話ですね。その中で自分達の健康もしくはそういうものをどこで見直すのかということについて、幼児世代から高齢者まで、楽しくなければ長続きしない、豊かな場所でなければ来たくもない、魅力がなければ行きもしない、その中でどういった施設を造って行くのかという事の中でワークショップがはじまったと思うので結局は自分たちの健康を継続する為のメニューやプログラム、継続する為の仲間、継続する為の要素があれば皆が仲良くできれば、58歳過ぎてリタイヤした人でもそこに行けば町の仲間がいるから何かすることで心がケアされるし、魅力があるものはうまくいく。それは山とか海ではなく町場にあるほど、じゃあ歩いてそこに行こうよとか、ジョギングのついでに行こうよと位置づけられた非常にいいロケーションの中に施設がありまして、皆さんと一緒にプログラムとかつくりようよというのが最初から私どもが位置づけてきたことでした。

今回時間がある中で町民の皆様の意識の中にどうやって浸透させていくのかというのが、今回のワークショップ次回も含めて、やはり魅力のある、自分の健康とか、役所ができること、自分たちはここ

までならお金を払ってやってもいいのではないかと、そういうことも含めて提案していただければ非常にいいことができる気がします。

本来最初にお話したと思いますが、私達が考えているのは中途半端な体育館を造りたいのではなく健康拠点となるような施設を造りたいのだとお話したと思います。その為にはどういことをやるべきなのだろう、1つの例にすれば、高齢者が病院いなくなれば料金が安くなる、高齢者が元気な町は明るい町、高齢者の運動も科学的に筑波大学のセクションが高齢者に運動にってもらってその高齢者の筋肉は発達するというをそれによって健康になるのだということをやって注目を浴びています。

まねではないけれども長泉町の保健センターはたくさんをやっています。ウォーキングを保健センターで始めたりして長泉町もすこし変わっているのです。けれどもこういうデータですよ、体育館はあそこにありますよ、でこれまでは終わっていたのですがそうではなく、検診をした方で明日くればこういう教室をやっているよというような同じ場所で、そこでというものができるサービスをする、滑走化する場所がほしい、というのが私達の最初の発想です。私達も皆様にお忙しい中集まってもらっているのに、いろいろなアイデアを否定するような発言はしにくいです。30人で10人くらいずつに分かれて議論をしてそれをぶつけあったときにはきっといろいろな意見が淘汰されると、だから30人でやりたかったのですが、こういうふうになってしまつてしまうとなかなか意見をいってくれたことに対してマイナスの意見がでなくて終わってしまう。

またここでハードの話になつてもまとまらないと思う。ソフトについて話し合つていきたい。何が足りないのかとそういうことに終始していききたい。このメンバーでやむを得ないと思います。

参加者：保健センターは、手近だからなのではなく、健康づくりの場を近くに置くことによって高齢者の健康管理に役立てばと。昼間の利用は昼に時間がある人がやればよいし、夜は日中時間が取れない人達がやればよいかな。そういうソフトにこだわっていききたい。
報告書としてもよいものになっていくのではないかと。
引き続きご協力をお願いしたい。

参加者：会合の出席率があまり良くないと言う話があるが、このメンバーでやっていききたいというのはあまりにも見識等が狭くなつてしまうのではないかと意味で、反対。
代理者をだしてもやっていききたい。

参加者：いま来ていない人はだめだよと言う意味ではなく、これくらいのメンバーで進めたいといっているのではないかと。

参加者：小人数でやるのなら、前回やったように3分割にして意見を出し合つて、そしてこういう場で活性化した意見をあげてくればいいのではないかと。これに参加するかどうかこれで維持ができるかどうか問題。

事務局：14年度は各種団体からお願いしてでももらっていたが、今年からはとくにお願いはしていない。フリーの方もいるし、団体の方もいらっしゃる。いろいろな組織の代表の人達でまとめたというよりも。議論を深めていくということが大事。だから必ずしも組織の方々からいただかなければおかしなというよりは、話を深めていければ、人数やその他のことはあまり関係ない。いかがか。

参加者：代表者はただ来ているだけ。その会で話し合われたことは報告されていない。その人個人が会議に明るいう方、団体の代表者と言うよりは、ただ個人として話に加わっているあるいは意見を述べているとは考えられないか。

参加者：私は役員のなかで一応話は伝えているつもりです。

参加者：一応周りの人からの意見を話し、それなりの反応をみて出席した時に対応しているつもり。

参加者：私は1度つるし上げられました。意見があわなかったためです。だから私は、今は代表でなく、個人的に長泉の町のためにここにきて意見を聞いている。大勢の方にきてもらつて反対の人にも納得してもらいたい。そうした上でできた施設なりを利用してもらいたい。

参加者：まあ大勢の方の意見も聞いていきたい。

参加者：今までと同じことの繰り返しなので、どんどんソフトの話しを進めていきたい。

参加者：人数等気にしないで進めましようといいたかっただけ。

参加者：いろいろな感覚を持っている人達が集まって意見を出してもらって洗練されていくことが大切。ここでは思っていることを発散していただく場であってほしい。

参加者：会に戻す時に資料のコピーはどこまで出してよいのか。ある内容だけが一人歩きをすることはよくないので、欲しい人は見に来てくれと言う話をしている。

事務局：今日の資料では 10 ページまでは問題ない。ただ基本構想とワークショップは別。今日もお配りしたいのですが、いちおう説明を加えてみていただきたい。部屋の大きさの比率や窓等ハードの部分はあくまでもそういうものを想定しているという観点で見えていただきたい。

お疲れ様でした。終了